

平成27年度

事業報告書

(第9期事業年度)



自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

目 次

1	大学の概要	
(1)	大学名	1
(2)	所在地	1
(3)	役員の状況	1
(4)	学部等の構成	1
①	学部等	1
②	大学院	1
③	助産学専攻科	1
④	附属病院	2
⑤	その他の附属施設等	2
(5)	学生数及び教員数	2
(6)	沿革	2
(7)	建学の精神	3
(8)	理念	3
(9)	行動規範	3
(10)	中期目標（平成25年度～平成30年度）（基本目標）	3
2	業務の実績	
(1)	総括	4
(2)	計画の主な実績	5
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置	5
第2	業務運営の改善に関する目標を達成するための措置	7
第3	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	8
第4	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	8
第5	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	8
第6	決算、収支計画及び資金計画	9
第7	短期借入金の状況	9
第8	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	9
第9	剰余金の使途	9
第10	その他	10
	別紙	11

北海道公立大学法人札幌医科大学事業報告書

1 大学の概要

(1) 大学名

北海道公立大学法人札幌医科大学

(2) 所在地

北海道札幌市中央区南1条西17丁目291番地85

(3) 役員の状況（平成28年4月1日現在）

役 職	氏 名
理 事 長（学長）	塚 本 泰 司
副理事長	高 木 洋
理 事	堀 尾 嘉 幸
理 事	大日向 輝 美
理 事	山 下 敏 彦
理 事	近 江 秀 彦
監 事	小 寺 正 史
監 事	山 本 剛 司

(4) 学部等の構成

① 学部等

医学部 医学科
保健医療学部 看護学科
理学療法学科
作業療法学科
医療人育成センター

② 大学院

医学研究科 医科学専攻（修士課程）
地域医療人間総合医学専攻（博士課程）
分子・器官制御医学専攻（博士課程）
情報伝達制御医学専攻（博士課程）
保健医療学研究科 看護学専攻（博士課程前期・後期）
理学療法学・作業療法学専攻（博士課程前期・後期）

③ 助産学専攻科

④ 附属病院（平成28年4月1日現在）

診療科数	26 診療科
病床数	938 床
室数	270 室

⑤ その他の附属施設等

附属総合情報センター、附属産学・地域連携センター、 医学部附属フロンティア医学研究所、医学部教育研究機器センター、 医学部動物実験施設部
--

(5) 学生数及び教員数（平成28年4月1日現在）

学部学生	1,033 人
大学院生	283 人
専攻科学生	20 人
研究生	93 人
訪問研究員	148 人
留学生	1 人
教員数	380 人
職員数	1,228 人

(6) 沿革

<p>本学は、北海道総合開発の一環として、昭和25年に旧道立女子医学専門学校を基礎に、戦後の新制医科大学第一号の医学部医学科の単科大学として開学した。</p> <p>その後、平成5年には札幌医科大学衛生短期大学部（昭和58年開学）を発展的に改組することにより、保健医療学部として開設し、本道で唯一の公立医科系総合大学として発展してきた。</p> <p>この間、医師をはじめとする多くの医療人を育成するとともに、先進医学・保健医療学の研究や高度先進医療の提供、さらには地域への医師派遣等を通じて、北海道の医療・保健・福祉の向上に大きく貢献してきた。</p> <p>平成19年4月には、新たな理念及び行動規範を掲げ、理事長のリーダーシップの下、最高レベルの医科大学を目指して、北海道公立大学法人札幌医科大学として新たに発出した。</p> <p>平成20年10月には、新たな教育組織として、教養教育と専門教育（医学及び保健医療学）の有機的連携の下、高度な医療技術を有し、かつ、高い医療倫理と教養を備えた人間性豊かな医療人を育成することを目的に、医療人育成センターを開設した。</p> <p>平成22年には、開学60周年（創基65周年）を迎え、「記念講演会」（道民公開講座）等、様々な取組により、これまでの本学の歩みや今後の方針等について、広く情報発信を行った。</p> <p>平成23年4月には研究機能の強化を図るため、医学部附属がん研究所等の研究部門を再編し、医学部附属フロンティア医学研究所を設置した。</p> <p>また、平成24年4月には、創造性に富み人間性豊かな助産師の育成を行い、北海道の母子保健の発展と充実に貢献することを目的に助産学専攻科を開設した。</p> <p>平成26年4月には、医学部及び保健医療学部の入学者選抜の円滑な実施や選抜方法の改善、オープンキャンパスや模擬講義等の入学者に対する広報の充実を目的にアドミッションセンターを開設した。</p> <p>また、看護実践・教育の質的向上を図る観点から、看護職員や看護学生を対象とした新たなキャリア形成支援を推進するため看護キャリア支援センターを開設した。</p>

(7) 建学の精神

- 一、進取の精神と自由闊達な気風
- 一、医学・医療の攻究と地域医療への貢献

(8) 理念

- 最高レベルの医科大学を目指します
- ・人間性豊かな医療人の育成に努めます
 - ・道民の皆様に対する医療サービスの向上に邁進します
 - ・国際的・先端的な研究を進めます

(9) 行動規範

1. 医学と保健医療学を通じて、北海道そして広く日本社会さらに世界に貢献します。
2. 最高の研究・教育・診療レベルを目指します。
3. 法令を遵守し、生命倫理・研究倫理・社会倫理を尊重します。
4. 地域と社会に対して必要な情報を公開します。
5. 人権・人格・個性を尊重し、差別・ハラスメントの無い環境を目指します。
6. 生命倫理・社会倫理を脅かす反社会的行為に対し毅然として対応します。
7. 地域・地球環境を守り、環境の保全・改善のために行動します。

(10) 中期目標（平成25年度～平成30年度）（基本目標）

1. 創造性に富み人間性豊かな医療人を育成し、本道の地域医療に貢献する。
2. 進取の精神の下、世界水準の研究を推進し、国際的な研究拠点の形成を目指す。
3. 高度先進医療の開発・提供を行い、本道の基幹病院としての役割を果たす。
4. 地域への医師派遣等を通じ、本道の地域医療提供体制の確保に向け、積極的な役割を果たす。
5. 最新の研究・医療に関する情報の地域社会への提供、より一層の産学官連携を進め、研究成果の社会還元を努める。
6. 国際交流を推進し、国際的医療・保健の発展に寄与する。

2 業務の実績

(1) 総括

本学は、公立大学法人として発足後、平成27年度で9年目を迎え、第2期中期計画の3年目として、引き続き中期計画の達成に向けた積極的な取組を進めた。

教育の分野においては、顕在化している医師不足に対し、北海道が設置した医科大学として道内で医学・医療に従事する医師を養成するため、医学部一般入試において、平成25年度入試から設置している「北海道医療枠」に関し、平成27年度入試では、募集定員55名を、「一般枠」の入試水準によっては、最大75名まで柔軟に対応可能とする制度に改正するとともに、アドミッションセンター長をはじめとする本学教員が、道内高校を訪問し、入試制度や、卒後キャリア形成支援等、本学の特徴をわかりやすく説明した結果、平成28年度入試における一般入試合格者75名中、道内出身者が52名、「北海道医療枠」の合格者は57名と昨年同様の高い水準となった。また、国家資格試験については、今年度も全ての職種において合格率が全国平均を上回り、特に看護師国家試験は13年連続合格率100%を達成し、これまでも看護系大学で全国1位であった記録を更新している。

研究の分野においては、引き続きトランスレーショナルリサーチの推進に取り組み、がんワクチン、脳梗塞及び脊髄損傷再生医療の医師主導治験を継続実施した。さらに、脊髄損傷に関しては、今後の早期実用化に向けて、特許ライセンス契約の締結先であるニプロ(株)と協力し、厚生労働省の「先駆け審査指定制度」に申請し、再生医療等製品として対象品目の指定を受けた。

附属病院においては、ハイブリッド手術室を活用した迅速かつ的確な救急医療体制の充実を図るとともに、がん看護専門看護師及び緩和ケア認定看護師による「がん看護相談室」を6月から対応診療科を全診療科へ拡大し、患者が抱える多様な悩みや不安に対して、がん拠点病院としての相談業務の充実を図ったほか、がん、肝疾患、エイズ等の専門医療について研修会や会議等を開催するなど、専門医療の提供に引き続き取り組んだ。また、「看護キャリア支援センター」において、看護実践・教育の質的向上を図るため看護職員や看護学生を対象に研修会・交流会を開催するなど、キャリア形成支援に取り組んだ。

業務運営においては、引き続きプロパー職員の採用に努め、事務職員に対して継続的なSD活動を実施したほか、業務の簡素化、効率化に取り組んだ。

社会貢献としては、引き続き地域医療機関への支援のため医師派遣を行うとともに、南檜山医療圏における分娩体制を維持するため、道立江差病院において産科周産期医師の派遣を継続した。

また、将来の社会貢献の担い手となる医師の養成を図るため、平成20年度から導入した推薦入試「特別枠」に加え、「北海道医療枠」の拡充や平成27年度から一般推薦を推薦入試「地域枠」として、北海道医療枠と同様の卒後必修プログラムを確約させるとともに、臨床研修医の確保に向け、初期臨床研修医の支援体制の充実を図るなど、研修・専門医養成・生涯教育を通じ地域医療への貢献に取り組んだ。その他、中国医科大学との交流協定を更新したほか、協定締結大学との学術交流や学生交流事業の実施など積極的な国際交流を推進した。

さらに、(株)ホリとの包括連携協定に基づき、本学初となる大学ブランド食品として「北海道しそハスカップゼリー」を共同開発・販売し、道内外にむけて本学のブランド及び道内地元企業との共同開発の取組成果を広くPRするとともに、連携協定締結企業等との各種公開講座を開催するなど広く本学の教育・研究・診療の最新情報を発信した。

今後も第2期中期計画の達成に向けて、人的、物的ネットワークを活用し、理念に掲げる最高レベルの医科大学を目指し邁進していくものである。

(2) 計画の主な実績

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するための措置

○卒業生の道内定着に繋げるための医学部入試形態改善の検証

本学卒業生の道内定着率を高めるため、平成25年度一般入試から取り組んできた入試形態の改善について検証した結果、平成27年度一般入試においては、合格者75名中、道内受験者の合格者は53名（前年比8名増）、北海道医療卒の合格者は63名（前年比8名増）と、いずれも前年を大きく上回り、平成24年度入試で44%まで低下した道内出身者の比率も71%まで回復した。

また、平成28年度一般入試においても、合格者75名中、道内受験者の合格者は52名、北海道医療卒合格者は57名となり、昨年同様の高い水準となった。

○保健医療学部における入試広報活動の充実に向けた取組

保健医療学部において、入試広報活動の充実を図るため、高校訪問による入試制度等説明会の拡大や学生募集に係るパンフレット、ポスターを作成し、道内外の教育機関、病院、関係団体等へ配付するとともに、ホームページのリニューアルにより、キャンパスライフなどの各種情報や入試広報などの最新情報の提供について、一層の充実を図った。

○医学部における診療参加型臨床実習の教育内容の充実に向けた取組

従来の「見学型実習」にとどまらず、臨床現場の医療チームの一員として、役割を持ってチーム診療に参加する「診療参加型臨床実習」は、臨床における実践的能力の養成において教育効果の高いプログラムであることから、十分な臨床実習機会の確保に向けた検討を進めるとともに、学生がより実践的な診療を行えるよう、本学教員と実習協力病院との連携・協力による「地域包括型診療参加実習」を実施した。さらに、臨床推論能力の向上を図るため、教員及び学生を対象とした公開セミナーの開催や、教員、学生からの要望・意見を踏まえながら「学生用電子カルテ」閲覧用端末の増設を行うなど、指導体制及び教育環境の充実を図った。

○保健医療学部における「保健医療セミナー」の開催

保健医療及び保健医療専門職に関する幅広い知識や見聞を広げるため、平成27年度より「保健医療セミナー」を実施し、医療専門職に求められるコミュニケーション技術や臨床現場において果たしている役割、患者及び他の医療専門職と信頼関係を構築する方法としての接遇について、対象学年ごとにテーマを設定し、学外講師等を招きセミナーを開催した。

○FDセミナーの企画と実施

FD教育セミナー4回、新任教員研修1回、FDワークショップ2回を開催し、教員の資質と教育能力の向上に繋がるよう努めた。

〈今年度実施したFD活動・・・7回〉

○学生のニーズに基づいた学生支援充実のための取組み

学習環境の充実を目的として、学生委員会委員及び学生担当教員が、学生の要望等を集約し、学生とともに検討する「学生支援会議」を、平成26年度（第1回）に引き続き27年度においても開催した。

同会議においては、新棟整備工事に伴う学習環境の変化について、学生を対象とした説明会を開催することや、キャリア形成支援に向けた具体的な取組、同会議の28年度以降における定例開催などの確認を行った。

○がんワクチン、脳梗塞及び脊髄損傷再生医療に係る治験の継続実施

がんワクチンに係る治験については、共同研究機関である東京大学医科学研究所附属病院及び神奈川県立がんセンターと合同会議を開催する等、治験推進体制を充実させ、治験に継続して取り組んだ。

また、脳梗塞及び脊髄損傷再生医療に係る治験については、今年度も治験に継続して取り組むとともに、全国の主要な医療機関等での個別説明会を実施するなど、各方面で本治験を積極的に周知し、被験者の確保に努めた。

さらに、脊髄損傷に関しては、今後の早期実用化に向けて、特許ライセンス契約の締結先であるニプロ(株)と協力し、厚生労働省の「先駆け審査指定制度」に申請し、再生医療等製品として対象品目の指定を受けた。

○科学研究費補助金獲得の支援

科学研究費補助金の獲得を支援するため、研究者向けの科学研究費公募要領等説明会を開催するとともに、若手研究者等を対象とした科学研究費申請書作成レクチャーを開催した。また、不正防止に向けた啓発と競争的資金等の獲得を支援するため、学内研究者等を対象としたコンプライアンス研修会を開催するとともに、平成27年度からは研究倫理教育研修会を年2回開催し、研究支援機能の強化に取り組んだ。

○ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療技術の提供について

ハイブリッド手術室で実施可能なTAVIの施設認定を平成26年度に受け、救急医療の充実を図るため、ハイブリッド手術室のさらなる活用に向けて課題を整理した。

○拠点病院としてのがん、肝疾患、エイズ等の専門医療の充実

がん看護専門看護師及び緩和ケア認定看護師による「がん看護相談室」を6月から対応診療科を全診療科へ拡大し、患者が抱える多様な悩みや不安に対して、がん拠点病院としての相談業務の充実を図ったほか、がん、肝疾患、エイズ等の専門医療について研修会や会議等を開催するなど、専門医療の充実及び地域支援に取り組んだ。

○看護職員や看護学生を対象としたキャリア形成支援の推進

「看護キャリア支援センター」において、看護実践・教育の質的向上を図ることを目的に、新人看護職員、中堅看護職員に対して、研修会と交流会を開催し、看護学生にはそれぞれ対象ごとに交流会を実施するなど、附属病院と大学との連携・協働のもと、看護職員や看護学生へのキャリア形成支援に取り組んだ。

○診療支援要請への対応

道や関係機関と連携し、地域医療機関からの診療支援要請に応えるため、地域医療支援センターにおいて審議の上、次のとおり公的医療機関等へ医師派遣を行った。

※要請件数：2,183件 派遣実績：2,126件 応諾率：97.4%

(うち公的医療機関派遣実績：1,295件、公的医療機関派遣割合：60.9%)

○公開講座・講演などの積極的な開催と情報発信

北海道の医療・保健の向上や道民の命を守ることを目的に、北海道新聞社との間で締結している連携協定「健やか北海道プロジェクト」による公開講座「すこやかライフ講座」を本学で3回開催し、学外では帯広市、釧路市、小樽市において開催したほか、道内中高生向けの取組として、7月には本学の最新医療機器等を用いて中高生が医療体験実習等を実施する「中高生メディカルセミナー」を本学で実施した。

また、留萌信用金庫、大地みらい信用金庫との連携協定により、本学生が実習を通じて地域住民や多職種とのコミュニケーション能力を高めるメディカル・カフェを、8月に留萌市及び根室市において実施した。

さらに、(株)ホリと本学との包括連携協定事業として秋の健康セミナーを9月に本学で実施したほか、十勝毎日新聞社と連携協定により、9月及び11月に帯広市で公開講座を実施した。

〈すこやかライフ講座〉年6回開催

〈メディカル・カフェ〉年2回開催

〈包括連携協定事業〉年3回開催

○協定大学との大学交流の促進

中国医科大学との協定を更新したほか、学生交流として中国医科大学及び韓国カトリック大学への派遣・受入、アルバータ大学への語学研修派遣を実施した。さらに研究者については、フィンランドヘルシンキ大学への派遣・受入、佳木斯大学、アルバータ大学リハビリテーション医学部、マサチューセッツ州立大学への派遣、中国医科大学からの受入を実施するなど、積極的な国際交流を行った。

第2 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

○事務職員への継続的なSD活動の実施

事務職員研修の実施計画として「平成27年度札幌医科大学事務局職員研修計画」を定め、新たな研修を実施するなど研修メニューの多様化、充実化を図りながら、次のとおり継続的なSD活動を実施した。

〈今年度実施したSD活動〉

計7回開催

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

○財務内容の改善による運営費交付金の縮減

診療収入の増加や経費節減に取り組み、収入総額の増加及び運営費交付金の縮減を図った。これにより、計画目標（少なくとも前年度比1%縮減）を達成した。

※平成26年度運営費交付金：5,000百万円

平成27年度運営費交付金：4,913百万円（前年度1.7%縮減）

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

○商品の共同開発による積極的な情報発信

(株)ホリとの包括連携協定に基づき、本学初となる大学ブランド食品として「北海道しそハスカップゼリー」を共同開発し、4月に発売を開始した。包装及び商品本体については本学の名称とシンボルマークを付与したデザインとし、民間企業との商品開発及び発売を機に、本学のシンボルマークを商標登録し、適切に活用できるように整備を行った。また、商品の売上げの1%をシンボルマーク使用料として大学収入となるよう契約を締結し、道内外にむけて本学のブランド及び道内地元企業との共同開発の取組の成果を広くPRした。

第5 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置

○ESCO事業による省エネの実施

平成22年度から本格的に開始したESCO事業による省エネ率は、平成27年度において13%を達成し、目標値の11%を2ポイント上回る削減効果があった。

第6 決算、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

第7 短期借入金の状況

※平成27年度の計画

①短期借入金の限度額

15億円

②想定される理由

運営費交付金の受入れ遅延及び事故発生等により緊急に必要な
なる対策費として借り入れすること。

※平成27年度の実績

該当なし

第8 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

※平成27年度の計画

該当なし

※平成27年度の実績

該当なし

第9 剰余金の使途

※平成27年度の計画

全学的視点に立ち、教育・研究・診療の質の向上、社会貢献及び
組織運営の改善に充てる。

※平成27年度の実績

該当なし

第10 其他

1 施設及び設備に関する計画

※平成27年度の計画 (単位：百万円)

施設・設備の内容	予定額	財源
施設整備事業費	602	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

※平成27年度の実績 (単位：百万円)

施設・設備の内容	実績額	財源
施設整備事業費	585	施設整備費補助金
医療機器整備費	520	長期借入金

2 人事に関する計画

※平成27年度の計画

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

※平成27年度の実績

第2の2「組織及び業務等に関する目標を達成するための措置」に記載のとおり

3 積立金の使途

※平成27年度の計画

次の業務の財源に充てる。

- ・大学（附属病院含む。）に係る施設設備整備事業
- ・その他、教育・研究・診療・社会貢献に係る業務及びその他
附帯業務

※平成27年度の実績

該当なし

別紙

平成27年度 決算

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
収入				
運営費交付金	6,493	6,672	179	
施設整備費補助金	602	585	△ 17	
自己収入	25,199	25,268	69	
授業料及び入学検定料収入	870	834	△ 36	
附属病院収入	23,472	23,502	30	
雑収入	857	932	75	
受託研究等収入及び寄附金収入等	1,039	2,058	1,019	
長期借入金収入	520	520	0	
目的積立金取崩	0	0	0	
計	33,853	35,103	1,250	
支出				
業務費	31,407	30,750	△ 657	
教育研究経費	1,747	1,909	162	
診療経費	13,081	13,100	19	
人件費	15,981	15,226	△ 755	
一般管理費	598	515	△ 83	
施設整備費	1,121	1,105	△ 16	
受託研究等経費及び寄附金事業費等	797	686	△ 111	
長期借入金償還金	528	527	△ 1	
計	33,853	33,068	△ 785	
収入-支出	0	2,035	2,035	

平成27年度 収支計画

北海道公立大学法人札幌医科大学

(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
経常費用	32,983	32,481	△ 502	
業務費	30,603	30,123	△ 480	
教育研究経費	2,011	1,866	△ 145	
診療経費	12,346	12,465	119	
受託研究費等	264	347	83	
役員人件費	94	139	45	
教員人件費	4,473	4,171	△ 302	
職員人件費	11,415	11,135	△ 280	
一般管理経費	598	576	△ 22	
財務費用	8	7	△ 1	
減価償却費	1,774	1,775	1	
経常収益	32,983	32,575	△ 408	
運営費交付金収益	6,408	6,054	△ 354	
施設費収益	0	84	84	
授業料収益	768	742	△ 26	
入学金収益	87	80	△ 7	
検定料収益	16	13	△ 3	
附属病院収益	23,472	23,502	30	
受託研究等収益	322	421	99	
寄附金収益	716	479	△ 237	
雑益	836	863	27	
資産見返運営費交付金等戻入	62	70	8	
資産見返寄附金戻入	95	72	△ 23	
資産見返補助金等戻入	168	168	0	
資産見返物品受贈額戻入	33	27	△ 6	
経常損益	0	94	94	
臨時損失	0	5	5	
臨時利益	0	0	0	
純損益	0	89	89	
目的積立金取崩額	0	0	0	
総利益	0	89	89	

(注) 金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。

平成27年度 資金計画

北海道公立大学法人札幌医科大学
(単位：百万円)

区 分	予算額	決算額	差額(決算-予算)	備 考
資金支出	33,853	40,348	6,495	
業務活動による支出	32,027	29,897	△ 2,130	
投資活動による支出	1,298	5,145	3,847	
財務活動による支出	528	1,200	672	
翌年度への繰越金	0	4,106	4,106	
資金収入	33,853	40,348	6,495	
業務活動による収入	32,731	32,312	△ 419	
運営費交付金による収入	6,493	5,976	△ 517	
授業料及び入学検定料による収入	870	784	△ 86	
附属病院収入	23,472	23,468	△ 4	
受託収入	300	446	146	
寄附金収入	739	725	△ 14	
その他収入	857	926	69	
預り科学研究費補助金等増減	0	△ 13	△ 13	
投資活動による収入	602	3,864	3,262	
施設費による収入	602	573	△ 29	
その他収入	0	3,291	3,291	
財務活動による収入	520	520	0	
前年度よりの繰越金	0	3,652	3,652	

(注)金額の端数処理は百万未満を四捨五入しておりますので、合計金額と一致しないことがあります。